

「冬の経済教室」 in 札幌

- 日時 2016年1月30日(土) 13:00~17:00
- 場所 sapporo55 ビル5階 キャリアバンクセミナールーム
- 参加者 46名

【内容要旨】

司会：兼間昌智氏（札幌市立常磐中学校教頭）

(1) 13:00~13:05 開会挨拶

篠原総一氏（経済教育ネットワーク代表／京都学園大学学長）



篠原代表より、主催者挨拶として、本教室の趣旨と内容について説明が行われた。

(2) 13:05~14:25 「経済学習におけるアクティブラーニングの進め方」

大杉昭英氏（国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長）



大杉先生より、経済学習でどのようにアクティブラーニングを進めるべきかについて

の講演が行われた。講演内容は、実際に以下のアクティブラーニングを体験して、理解を深める形式となった。

- ・ Q 1. 野菜に塩と砂糖をかけたとき、砂糖の方がたくさん水分が出るのはなぜか？
- ・ Q 2. これは何を表したグラフか？タイトル名（スーパーの来店者数）と理由を考える
- ・ Q 3. 森林面積全体に占める自然林の割合が低いところはどこか？ 4 地域と理由（焼き物が盛んな地域）を考える

大杉先生によると、アクティブラーニングの授業づくりで注意すべきことは、育成すべき能力や知識の質を重視することとなる。これは、生活経験から得られた素朴理論で考えさせるのではなく、教科で学んだ科学理論を活用し、問題状況に当たる授業構成にすることが大切ということである。このことから、経済学習では、経済学の知識（概念・理論）という道具を使って問題解決をしていくものになる。また、答えが定まった問題でなく、定まった答えのない問題を考えさせることで、発言しやすい雰囲気を作り出すことができるという説明が行われた。

(3) 14:30~15:55「経済の流れから国民所得を読み解く～見方・活かし方～」

小巻泰之氏（日本大学経済学部教授）



小巻先生より、国民所得をどう読み解くかについて講演が行われた。国民所得の単元の授業は暗記中心となり、生徒にとって眠くなってしまいうものでもある。このため、今使うか（現在を重視するか）、将来使うか（将来を重視するか）という選択から、国民所得や三面等価の原則を考える方法について、基礎からわかるように噛み砕いて説明された。

関連して、ISバランスと財政赤字、ブータン指数や福井モデル、GDPとGNPの計測の範囲、景気循環と将来の予測、日銀初のマイナス金利、アベノミクスと量的緩和と政策などについて、身近な事例やクイズを基に説明が行われた。

(4) 16:00～16:45 「時間の経済学～あなたはアリ？それともキリギリス？～」

埴枝里子氏（東京都立府中東高等学校教諭）



埴先生より、授業リーフレットとパワーポイント〔共に一般財団法人日本経済教育センターのHP (<http://keikyo-center.or.jp/>) よりダウンロード可〕に基づき、実践紹介が行われた。

本授業で用いた「時間割引率」の概念は、東京部会で話が出た概念であり、これをもとに授業開発したものである。週2時間の「政治・経済」の授業のうち、1時間は「講義形式」、残り1時間は「株式学習ゲーム」を行っている。授業自体は、政治分野からではなく、経済分野から実施しており、本授業は「戦後日本経済のあゆみ」の単元で実施している。

授業の成果としては、経済には自らの意思決定が深く関連しているという実感を醸成させることができたことと、お金の「価値」や「時間」に関する意識づけが図られたことが挙げられる。最後に、このような概念を活用した授業を開発していきたいということ、社会の問題を自分の問題として考えられる生徒を育成したいという抱負が述べられた。

(5) 16:45～16:55 質疑応答

主な質疑応答は次の通りである。

Q 1. 大杉先生の内容について、社会科の目標は主権者の育成を目標としており、アクティブラーニングは企業人の育成を目標としている。異なる目標に対し、どのように内容、方法をすりあわせて考えたら良いか？

A. アクティブラーニングは、企業人の育成というより、折り合いをつける力を育成するもの（大杉）

Q 2. 埴先生の内容について、塾に通うと答えた子の割合は？

Q 3. 経済にどのように関心を持たせたら良いか？

A. 意思決定を伴う学習にする（大杉）

A. 北風と太陽などの物語を使う（小巻）

A. 生徒が自分の問題として捉えられる内容にする（埴）

Q 4. 埴先生の内容について、株式学習ゲームについてご教授願いたい

Q 5. 今回の感想について

(6) 16:55~17:00 閉会挨拶

川瀬雅之氏（北海道札幌清田高等学校副校長）



川瀬先生より閉会挨拶として、3名の講師への謝辞が述べられ、併せて札幌部会の活動について紹介が行われた。

また、終了後は講師を交えた懇親会（24名参加）が開かれ、交流が深められた。

記録／文責：山崎辰也（北海道北見北斗高等学校教諭）